

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
講義・演習（実習）	
1 職務の理解	6時間
(1) 多様なサービスの理解	
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間
(1) 人権と尊厳を支える介護	
(2) 自立に向けた介護	
3 介護の基本	6時間
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	
(2) 介護職の職業倫理	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	
(4) 介護職の安全	

実施計画		
カリキュラム名・時間数		実施内容
1 職務の理解	6時間	1 職務の理解
(1) 同左	3	(1) 講義のみ ・視聴覚教材を使用し講義
(2) 同左	3	講義及び演習 (2) ・視聴覚教材により、介護の現場、仕事内容を理解する。 ・各種施設見学を行い、介護職が働く現場や仕事内容を把握する。 ・見学後、疑問点気づいたことを意見交換する。
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 同左	5	(1) 通信講習のみ
(2) 同左	4	講義及び演習 (2) ・具体的な事例に基づき自立支援、介護予防の考え方等講義 ・残存能力の活用した介護について、グループ討議する。 ・通信講習(2時間)
3 介護の基本	6時間	3 介護の基本
(1) 同左	2	講義及び演習 (1) ・多職種との連携の事例を具体的事例で講義する。 ・個別事例を基に、多職種との連携のありかた、注意点をワークシートに作成し、発表する。
(2) 同左	1	(2) 講義のみ ・事例による講義
(3) 同左	2	(3) 通信講習のみ
(4) 同左	1	(4) 通信講習のみ

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害福祉制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6時間	
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	

実施計画		
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間		
(1) 同左	5	講義及び演習 ・介護保険制度の目的、利用の流れについて講義 (1) ・具体的事例についてサービスの種類や利用の流れを作成、グループで討議し発表する。 ・通信講習(3時間)
(2) 同左	2	(2) 通信講習のみ
(3)	2	(3) 通信講習のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間		
(1) 同左	3	講義及び演習 ・コミュニケーションの意義、目的、役割について講義 (1) ・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーションの留意点について、ロールプレイングによる技術演習
(2) 同左	3	(2) 通信講習のみ
6 老化の理解 6時間		
(1) 同左	3	(1) 通信講習のみ
(2) 同左	3	講義及び演習 ・高齢者の心身の変化や疾病について事例から講義 (2) ・ワークシートを使用し、高齢者の疾病と生活上の留意点介護の留意点を「列挙し発表する。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
7 認知症の理解	6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	
8 障害の理解	3 時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	

実施計画		
7 認知症の理解	6時間	7 認知症の理解
(1) 同左	1	講義のみ (1) ・視聴覚教材により認知症の理解 ・認知症の現状について講義
(2) 同左	1	講義のみ (2) ・医学的側面から講義
(3) 同左	3	講義及び演習 (3) ・複数事例を通して認知症利用者への対応や配慮、ケアの原則等グループで討議発表する。 ・通信講習(2時間)
(4) 同左	1	(4) 通信講習のみ
8 障害の理解	3時間	8 障害の理解
(1) 同左	1	講義のみ (1) ・事例による講義
(2) 同左	1	(2) 通信講習のみ
(3) 同左	1	講義及び演習 (3) ・障害事例に応じた関わり方、家族支援等事例ごとにグループ討議

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50～55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	

実施計画		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75時間	9 ころとからだのしくみと生活支援技術
ア 基本知識の学習	10時間	ア 基本知識の学習
(1) 同左	2	(1) 通信講習のみ
(2) 同左	4	講義及び演習 ・視聴覚教材等で基本を学習 (2) ・老化、障害の受け入れ過程で起きるころの動き等事例を提起し、グループ討議する。 ・通信講習(2時間)
(3) 同左	4	(3) 通信講習のみ
イ 生活支援技術の講義・演習	54時間	イ 生活支援技術の講義・演習
(4) 同左	3	講義及び演習 (4) ・視聴覚教材等で基本を講義で学習する。 ・便利用具など使用し、演習する。 ・事例を通して調理、清掃手順等の支援の在り方を演習する。
(5) 同左	3	(5) 通信講習のみ
(6) 同左	6	講義及び演習 (6) ・視聴覚教材等で基本知識を講義で、生活支援技術を演習で学習する。 ・装いについて、高齢者の心理などグループ討議を行う。 ・更衣等、自立に向けた介護を実技演習する。
(7) 同左	6	講義及び演習 (7) ・視聴覚教材等で基本知識、生活支援技術を学習 ・舗装具の種類や使用方法を体験する。 ・車椅子、ベットの移乗等、介助実技を演習し、利用者側に立った感想を意見交換する。 ・ボディメカニズム利用など介護者にも配慮した介護方法を実技演習する。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	

実施計画		
(8) 同左	6	<p>講義及び演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材等で基本知識を講義で、生活支援技術を演習で学習する。 ・とろみや食器等施設で使用している器具など体験する。 ・咀嚼、嚥下のメカニズム、介助を実技演習する。
(9) 同左	6	<p>講義及び演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材等で基本知識、生活支援技術を学習する。 ・浴室で浴槽操作等、介助実技演習する。 ・在宅を想定しての援助技術、用具の活用など実技演習する。 ・体験後、プライバシー配慮など意見交換を行う。
(10) 同左	6	<p>講義及び演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材等で基本知識、生活支援技術を学習する。 ・おむつ交換等の実技を通して、プライバシーへの配慮、介護者の身体に留意した介護などを演習する。 ・工夫されたおむつや便利用具など実技演習する。 ・利用者の心情など体験後、発表する。
(11) 同左	3	<p>講義及び演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材等で睡眠のメカニズム、基本知識を講義で、生活支援技術を演習で学習する。 ・安眠に対する環境整備や工夫について、施設で行っている取り組みを実技演習する。
(12) 同左	3	<p>講義及び演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳ある死について事例を通して、利用者、家族の立場対応の仕方等学習する。 ・多職種との連携の取り方、望ましい終末期介護について意見交換を行う。 ・通信講習（1時間）

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）	
(実習) [※]	(50～55時間中12時間以内)
介護実習	○時間
ホームヘルプサービス同行訪問	○時間
在宅サービス提供現場見学	○時間
ウ 生活支援技術演習	10～12時間
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り	4時間
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
計	(130時間)

実施計画		
(実習) [※]	12時間	(実習) [※]
同左	8	特別養護老人ホーム第二万寿園で実習を行う。
同左	4	寿ヘルパーステーションで実習を行う。
ウ 生活支援技術演習	11時間	ウ 生活支援技術演習
(13) 同左	5	講義及び演習 (13) ・グループごとに事例から基本情報の把握、アセスメント、介護計画等評価修正までの流れを作成し、討議する。
(14) 同左	6	講義及び演習 (14) ・事例で支援の視点、演習、課題等整理する。 要支援、片まひ、認知症事例を実技演習する。
10 振り返り	4時間	10 振り返り
(1) 同左	2	(1) 講義及び演習 ・研修で学んだことを、介護者の基本的態度等について発表する。
(2) 同左	2	(2) 講義のみ ・視聴覚教材等で介護施設の状況、研修の状況など講義
計	(130時間)	計 (130時間)

※「9 ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。